

新屋高校版・生成 AI 活用ガイドライン

1. 目的と理念

新屋高校では、生成 AI を「生徒の主体的・創造的な学びを支えるツール」として活用する方針です。ただし、その利用にあたっては以下の 3 つの視点を大切にします

- ①人間中心の学び：AI に任せるのではなく、自ら考え・選び・表現する力を育てる
- ②情報活用能力の育成：AI の出力を鵜呑みにせず、真偽を見極めるリテラシーを育む
- ③リスクへの配慮：個人情報保護、著作権、誤情報などの問題に適切に対応する

2. 生成 AI の主な活用場面と指針

活用場面	使用可否	活用例	注意点
探究・課題研究	条件付きで可	資料の整理、問いの精緻化、仮説立て	出力の真偽を確認し、出典を明記
エッセイ・レポート作成	一部可	構成案、言い回しの検討	完全な代筆は禁止、必ず自分の考えを中心に
STEAM／プロジェクト学習	可	アイデア発想、資料の下調べ	他者の著作物との混同に注意
宿題や定期考査	原則不可	—	学びの過程を重視するため、自己解答を優先
IT・情報・プログラミング	可	コードの例示、エラー解消支援	理解のための活用にとどめる
教職員の活用	可	教材案作成、指導案のヒント	内容の検証は必ず実施する

3. 具体的な活用例（新屋高校 SSC プロジェクトとの連携）

- ・探究活動の「問いの深掘り」や「調査視点の整理」に利用
- ・地域課題の仮説構築・アイデアブレスト支援
- ・アントレプレナーシップ教育での「ビジネスモデルの仮案作成」
- ・振り返りや自己評価文のたたき台生成
- ・授業内でのディスカッション用プロンプト作成

4. 使用時のルールと注意事項

- ・個人情報絶対に入力しない（氏名・住所・学校名など）
- ・出力の正確性を必ず確認すること（誤情報が含まれる場合あり）
- ・出典や参考元を明記する習慣を付ける
- ・著作権に配慮（生成された文章や画像の再利用は要注意）
- ・「考えること」から逃げない（思考や判断を委ねすぎない）

5. 生徒・教職員へのメッセージ

生成 AI は、「使い方を知る」ことで強力な学びの道具になりますが、「何でもやってくれる魔法の箱」ではありません。新屋高校では、生成 AI の活用を通して、生徒一人一人が「問いを立て、答えを探す力」や「責任ある情報の使い手」としての資質を育んでいきます。

作成：令和7年5月26日（月）

改訂：令和8年8月25日（火）